

2017年10月4日 第6回スチュワードシップ・セミナー

事前質問及び会場からのご質問をご紹介します。

多数のご質問をいただき、ありがとうございました。

社外取締役と投資家の対話に関連するご質問についてはパネルディスカッションのなかで説明・回答させていただきました。個別開示、協働エンゲージメント、ESGなどに関するご質問については、今回のセミナーのテーマと異なりますので、次回以降で関連するテーマの機会に取り上げさせていただきたいと存じます。

【ご質問】

- ・「株主と企業との対話」とりわけ社長経験もあるような社外取締役とアナリスト、投資家が対話する際、
 - ① 投資家側の対話能力、レベルに問題はないのか、
 - ② どうすればレベルアップできるのか、
 - ③ 逆に、社外取締役サイドで、対話に際してどのような期待をしているのか、どう準備すべきだと思うか。

- ・鈴木様と保田様が社外取締役として投資家と対話する事となった場合に（社外をされている）会社にどのような準備（情報、インプット）をリクエストされますか。

- ・①社外取締役の兼職はどの程度まで許容されるべきか、
②社外取締役の任期が長くなると社外性が薄まると言われますが、どう思われますか。
③報酬の払い方。委員会や委員長の就任によって変えるべきか。

- ・投資家と社外取締役との対話に関しては、どのような場所、方法での対話が効率的、現実的と考えられるか。

- ・監査役会設置会社です。取締役会では重要な業務執行の決定が多い中、社外取締役へ直接対話したいということの目的は何でしょうか？ 社外取締役個人の資質を知りたいのですか？ 社外取締役への対話を通じて何を知りたいのでしょうか？

- ・コーポレートガバナンスの社外役員の有効性は、形式基準クリアだけでは不足している。
 - ① 社外取締役には、具体的にどの分野でどんな活動をしたのか開示を求めたらどうか？

- ② 社外監査役には、取締役会への出席率だけでなく関与時間数の開示を求めたらどうか？

- ①個別結果開示は手間とコストがかかるが、割に合うか。
 - ②投資家としては、コーポレートガバナンスを勉強しているか。どのような点が勉強の中心か、また、勉強方法は。
 - ③ 会社経営者にコーポレートガバナンスを整備したほうがいいとお薦めする際のツボは何でしょうか。利益は上がらない、と言われた場合の反論などいただければ助かります。
 - ④ 「お友達」で選任され、「何も言わない」はずの社外取締役に、取締役会等で発言してもらうためのツボは何でしょうか。役員責任の重さか、ご本人の名前の価値でしょうか。

- アクティビストファンドによる株主提案は、今後日本でさらに増えていくのでしょうか。

- ①個別開示によりどのような影響がありましたか？
 - ②協働エンゲージメントについての考え方、現状でのご予定について教えてください。（一般論）どのようなアプローチが有効でしょうか？

- ESG に対する評価のメジャメントを設定しているか？ 設定している場合、その具体的内容をご紹介いただきたい。

以上です